

始まっているエネルギーシフト

全自動薪割り機始動!

# 智頭石油株式会社



智頭石油を中心に、山の木を生かしていく意気込みを見せる関係者の方たちです。(左から2番目が米井社長)

## 「新たな油田」である緑豊かな山へ



ガソリンスタンドを始め石油・ガス販売・自動車関連サービスで広く知られる智頭石油株式会社が、薪販売にも乗り出すということで、化石エネルギーと自然エネルギーという180度違う取り組みに驚きの声が上がっています。しかし、もともとは代々林業経営者であったということで、新事業への取り組みになるほどと、まずは納得しました。

とは言っても、大きなチャレンジであることには変わりはありません。米井哲郎社長の「これからの環境問題やエネルギーの多様化に対応したい」という強い思いが事業推進の源です。「EVカー（電気自動車）」のレンタルやカーシェアは、県内にネットワーク化されたEV急速充電器設置と共に展開しています。

そして、地域の緑豊かな山を「新たな油田」とし、間伐材を利用した「バイオマス燃料」への挑戦を始められました。そして更に山を活性化させることを目的に、薪の安定供給を目指し、今回はなんと日本ではほとんど導入されていないフィンランド製の全自動薪割り機を導入した、とのことで、初始動の日に向ってきました。



林業が衰退を続けると山林が荒廃してしまいます。  
 智頭石油さんは、地域資源である森林を活用することで、  
 この問題にくさびを打とうとしています。

## エネルギーシフトとは？

ドイツを中心に取り組みが進んでいる、国全体のエネルギー供給システムを、石油や石炭、ガス、原子力によるものから再生可能エネルギーによるものに切り替えることです。ドイツは遅くとも2050年までに、必要な電力の少なくとも80パーセント、最終エネルギー消費の60パーセントを再生可能エネルギーでまかなう体制を目指しています。このプロセスの最初の大きな道程標として、22年までにすべての原子力発電所を廃止し、25年までに再生可能エネルギーによる発電の比率を、現在の25パーセントから40-45パーセントまで拡大します。量目標ともに広範な国内の政治的・社会的支持を得ています。(ドイツ大使館HPより)



智頭の山を生かす事業について  
 熱い思いを語る米井社長



グリーンステーション課の米井康史さん。  
 智頭石油のエネルギーシフトを  
 最前線で支えています。



村案エナジー株式会社  
 代表の井筒さんは、木質バイオマス  
 活用について、米井さんたちの  
 信頼のおけるパートナーです。



乾燥バッグに入れたまま乾燥できるので、  
 薪棚に並べる作業がありません。



西粟倉にある温泉「元湯」オーナー井筒さんは、知る人ぞ知るバイオマスエネルギー導入のコンサルタント。今回は、元湯で使う薪割りのために、薪割り機を活用しに来ました。「薪割りの人件費を使うよりも、機械をレンタルしたほうが安く薪を調達できます」と、トラックいっぱい薪を積んでいきます。

